

会議結果報告書

令和6年9月2日

会議の名称	令和6年度第2回志木市環境審議会
開催日時	令和6年8月2日（金）午後2時00分から
開催場所	志木市役所 庁議室
出席委員	増田会長、竹前委員、上原委員、田中委員、堀口委員 青木委員、秋場委員 清水委員、大村委員、毛利委員 (計10人)
欠席委員	(計 0人)
議題	(1) 志木市地球温暖化対策実行計画・区域施策編（素案） について
結果	以下審議内容のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	松井部長、増田課長、白子主幹 (計 3人)
審議内容の記録（審議経過、結論等）	
1. 開 会	司会：増田課長
2. 諮 問	志木市地球温暖化対策実行計画・区域施策編の策定について、松井市民生活部長より増田会長に諮問させていただいた。
3. 挨拶	増田会長
4. 議 題	(1) 志木市地球温暖化対策実行計画・区域施策編（素案）について 【事務局より事前に送付した「志木市地球温暖化対策実行計画・区域施策編（素案）の内容及び計画策定までのスケジュールについて説明した。】 会 長 それでは、ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。 委 員 事務事業編について簡単に伺いたい。

事務局 令和3年度から令和7年度までを計画期間とした市役所が取り組むべき事項をまとめた計画である。

委員 P17の目標達成に向けた取組で、家庭で有効的な取組内容を明確に記載してはどうか。また、P15の温室効果ガス排出量の2030年度目標値は県データを参考とした算出ではなく、市として独自に算出できないのか。目標をもっと目立つように、例えばグラフを入れる等の工夫をしてはどうか。

先ほどの目標値について県データを参考として算出とのことだが、節水・節電等それぞれの削減目標を数値化できればよいと考える。

事務局 今後、市役所の各課で実施している関連事業の洗い出し・調整等も実施し、取組内容について、さらに盛り込んでいく。

市内に大きな工場もないため目標達成には、市・市民・事業者が一丸となった削減取組の実施が不可欠となることを、本計画で大いにアピールしていきたい。

委員 市民・事業者向けの計画であるため、サブタイトルを付けてはどうか。区域施策編というタイトルは市民が見てもわかりづらいのではないかと。また、P11で事務事業編が出てくるので、事務事業編及び区域施策編について、簡単に説明があるとよい。

さらに、P17の取組の柱・1緩和策(1)で、省エネルギーの推進が市民にとって一番大きな取組となるため①と②を入れ替えたほうがよいのではないかと。

委員 P17の緩和策で取組内容を記載しているが、これとは別に「家庭部門」等部門別の省エネ行動の記載があると市民が見たときに分かりやすいのではないかと。

P19の図について、市民向けの計画のため市民・事業者をもっと大きく表現すべきではないかと。

委員 国の「気候変動影響評価報告書」や「荒川水系(埼玉ブロック)流域治水ガイドライン」を参考にしてもいいのではないかと。志木市の取組事例が好例として取り上げられている。

委員 SDGsについて、ウェディングケーキモデルの図を掲載してはどうか。環境関連のゴールが一段目の基盤として位置づけられており分かりやすく表現されている。

委員 P17の重点取組に指定されている「環境教育」でどのような効果があるかと。

事務局 「環境教育」を市内の小・中学生を対象に実施することで、学習により

知識を習得した児童生徒が、環境への興味、関心を高め、日常生活で温室効果ガス排出量の削減に繋がる取組を実行し、さらに家庭で共有することで市民全体の意識向上を目指すものである。

委員 環境教育は、よい取組の一つだと思う。市民の励みになるような計画を策定すべきである。

会長 委員の皆様からたくさんのご意見をいただきましたので事務局で取りまとめていただき次回の審議会においてご審議いただきたいと思う。

事務局 本日いただいた意見を集約し、次回の審議会前には送付するので、次回の審議会でご意見をいただきたい。次回開催は9月下旬を予定している。

5. 閉会

以上